

輸入粗飼料の情勢

全酪連
 購買生産指導部
 購買推進課

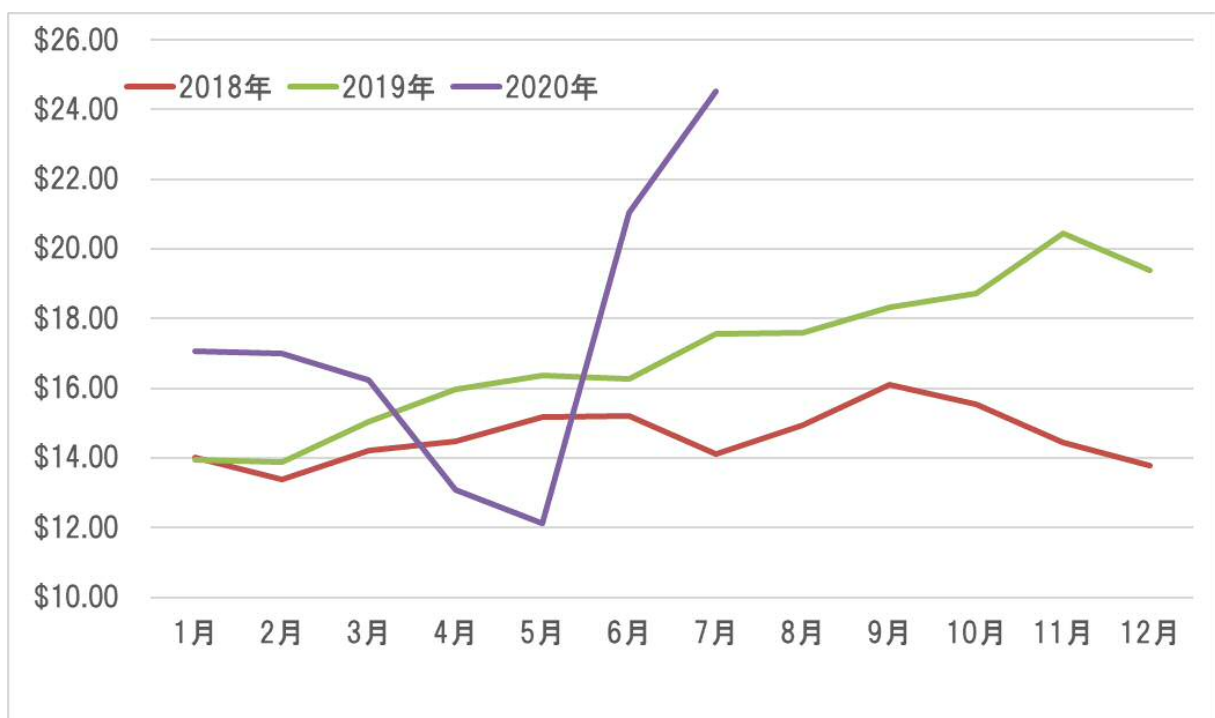
北米コンテナ船情勢

COVID-19の影響で減少していた世界的貨物の流通量は徐々に回復傾向にありますが、一部船社では依然として航路により需要に応じた減便を行い本船の運航間隔を調整しています。北米発の輸出向けの船腹は一時の混乱から脱し落ち着きを取り戻しており海上運賃も安定し始めていますが、反対にアジア発北米向けは本船減便の影響と経済活動の回復を受け船腹が逼迫した状況が続いており、海上運賃は高止まりしています。

米国の空コンテナ不足は改善傾向にありますが、地域によっては依然として不安定な状況が続いており引き続き注視が必要です。

米国乳価状況

8月5日にUSDA（米国農務省）が発表した7月の全米平均クラスⅢ乳価は、乳製品100ポンドあたり\$24.54と前月比\$3.5上昇しており、この乳価は歴史的に高い水準です。この相場はCOVID-19の影響を受け乳製品需要減少を危惧した米国政府による買い支えと、自宅で過ごす時間が多くなった各家庭による小売店への需要増加、加えて外食産業が再開したことによる需要増加によるものと考えられています。



(出典：USDA 全米平均クラスⅢ乳価 単位：米国ドル/100ポンド)

ビートパルプ

【米国】

主産地ミシガン州では、夏季に降水量が限定的だったことに加えて、気温が高かったことから、収量が例年に比べ減少することが予測されています。スケジュールの早い圃場では8月中旬から収穫が開始される見込みです。ノースダコタ州では一部で大雨に見舞われたものの、例年並みの生育状況であり、8月10日頃から収穫が開始される予定です。ミネソタ州における生育状況は良好です。過去5年の平均収量を上回ることが予想されており、一部のスケジュールの早い圃場では、例年よりも1か月近く早い8月10日から収穫が開始される見込みです。

アルファルファ

ワシントン州

コロンビアベースンでは2番刈の収穫作業は終了し、南部のスケジュールの早い圃場では3番刈の収穫作業が始まっています。2番刈の作況は収穫期間中好天に恵まれたことで、降雨被害はほとんどなく色目の良いアルファルファが収穫されています。半面、気温が高く乾燥時の強風とベーリング時に夜露が十分に降りなかったことから、ドライな仕上がりのものが見られています。

産地相場については2番刈で雨当たり品も少なかったことから1番刈と比較すると相場はやや軟化しているものの、高成分品は19年産からの繰り越しもなく、20年産も発生が限られていることから、引き続き高値での取引がされています。



(アルファルファ 2番刈 コロンビアベースン 7月下旬撮影)

オレゴン州

クラマスフォールズでは冷涼な気候と早魃の影響で1番刈の生育状況が心配されたものの、収穫作業は例年通り6月上旬から開始しました。一部で雨当たり被害があったものの、作況はますますで上級品も発生しています。産地では2番刈の収穫作業が始まっています。産地相場は乳価の回復している米国内の酪農家の引き合いが強く上昇傾向にあります。

クリスマスバレーでは1番刈の収穫作業は終了しており、2番刈の収穫が開始しています。1番刈は収穫期に好天に恵まれことから、上級品が多く発生しています。一方コロンビアベースン産1番刈の不作を受け、高成分品を求める米国酪農家や輸出業者が旺盛に買付けを行っており、産地価格は高騰しています。



(アルファルファ1番刈 左：クラマスフォールズ産 右：クリスマスバレー産 7月中旬撮影)

ネバダ州・ユタ州

ユタ州中部では1番刈の収穫を5月末から開始しました。好天に恵まれたため雨当たりの被害なく収穫を終えており上級品も発生しています。7月中旬から2番刈の収穫が開始しています。

ネバダ州では1番刈の作況は地域により様々で北部では収穫時に断続的な降雨があったことから、輸出向けの品質は限定的です。他方で同州中西部では1番刈の一部で降雨被害があったものの比較的順調に収穫を終了しています。現在産地では2番刈の終盤を迎えています。



(アルファルファ 1 番刈 ネバダ州中西部 7月下旬撮影)

カリフォルニア州

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは5番刈が収穫中です。一部の早い圃場では6番刈の収穫が開始されています。産地では連日気温が40℃を超えているため、分析値も落ちておりサマーハイと呼ばれる中級品以下の品質が中心に生産されています。

米国産チモシー

主産地であるコロンビアベースン、キティタスバレーでは1番刈の収穫作業が終了しました。6月上旬から中旬にかけて、断続的に降雨があったため降雨を避けることができた早刈りの上級品の発生量は限られています。反面雨当たりの影響を受けた色抜けや、適期で刈り取りができなかったことによる茎の硬さ、茶葉の多く混入したチモシーの発生が例年よりも多くなっています。20年産は主産地であるコロンビアベースンでの作付面積が前年比2割ほど減少し19年産からの上級品グレードの繰り越し在庫も少なく、20年産の上級品の供給力が限定的であることから上級品の産地相場は高騰しています。

スーダングラス

主産地であるインペリアルバレーでは20年産1番刈は概ね終了し、2番刈の収穫が本格化しています。20年産は1番刈の収穫開始が例年に比べ2-3週間ほど遅れたことから、茎サイズの安定した上級品の発生が少なく、中級品の発生が多くなっています。色抜け品に関しては色目の安定した柔らかい品質のスーダンの発生が限られており、限られた色抜けの上級品を求め、産地では買付が激化しており価格は上昇傾向にあります。産地では気温も高くなっているため今後は中級品以下の発生が中心になります。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

産地では3番刈の収穫が後半戦を迎えており、スケジュールの早い生産者では4番刈の収穫を開始しています。気温も高く湿度も出てきているため、茎の硬く色目の抜けたクレイングラスも発生しています。産地価格の低迷から、3番刈でクレイングラスの生産を中止し他の換金作物に転作する生産者も見られています。

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

主要産地のウィラメットバレーでは、アニュアル種のライグラスストローの収穫が終了しています。8月上旬からペレニアル種の収穫作業が開始される予想です。春先から産地の輸出業者でストロー製品が完売状態となっています。他方で韓国を中心とするストローの需要が引き続き強く、輸出業者は在庫を確保するために現地相場は堅調に推移しています。

カナダ産チモシー

主産地であるアルバータ州南部レスブリッジでは例年より1週間遅い7月上旬から1番刈の収穫が開始し、現在収穫は終盤を迎えています。収穫期に天候が安定していたため20年産は上級品から中級品の発生が中心になることが予想されています。

非灌漑エリアである同州中部のクレモナでは6月から7月の前半までは降雨が続いていたものの、現在では天候は回復しており、8月上旬から収穫が本格化する見込みです。米国産の不作を受け、カナダ産に対する引き合いが強くなっているため、現地相場は強含みで推移しています。

豪州産オーツハイ／ウィートストロー

生育期中盤に差し掛かっていますが全豪的に平年を下回る降雨量となっています。南豪州では非常に良いスタートを切ったものの、7月は冷涼な気候が続いたため生育にやや遅れが見られています。東豪州は直近冷涼な気温が続いたものの生育は持ち直しており順調です。西豪州は播種後に乾燥した気候による生育の遅れが心配されましたが、直近では広範囲で降雨があり順調に生育しています。

豪州コンテナ船情勢

ここ数か月空コンテナの確保が厳しい状況が続いていましたが、6月下旬頃から全港的に状況が改善され始めています。しかしながら船のスケジュールは現状も不安定な状況が続いており、日本への入船が予定よりも遅れるケースも散見されます。

以 上